

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

客観式・記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問3, 解答数62(客観式36 記述式26)であった。昨年度に比べ、解答数が1問増加している(客観式が3問増加し、記述式が2問減少)。一部で詳細な知識を必要とする問題が出題されているものの、概ね教科書に準拠した基本事項を問う問題であった。難易度は、昨年度とほぼ変わらない。

出題の特徴や昨年との変更点

I 政治分野、II 経済分野、III 国民生活分野(公害・環境問題)という各分野から偏りのない出題になっている。

新課程を踏まえた出題

【III】【設問5】(ク)では、新課程の「公共」の教科書などで取り上げられている「エシカル消費」が出題された。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	客観式 記述式	日本の刑事手続き と人権保障	【設問1】・【設問2】は、例年通り、日本国憲法の条文の文言を空欄にして問うている。【設問4】も、憲法第34条の内容を問うているが、条文の内容を正確に知らないとは正解は難しい。【設問6】では、死刑確定判決が再審無罪になった冤罪事件を問う問題が出題されている。足利事件は、無期懲役判決が再審無罪になった事件である。	標準
II	客観式 記述式	近年の日本における 金融政策	【設問1】(イ)では、2024年に解除されたマイナス金利政策を問うという、時事的要素を踏まえた問題が出題されている。【設問3】は、政策委員会の構成や任期について、やや詳細な知識を必要とする問題である。【設問4】ではマネタリーベースの概念について、【設問7】では金融引き締め政策が及ぼす影響について出題された。難易度は、いずれも標準的なものであるが、各分野に関する正確な理解を必要とする問題である。	標準
III	客観式 記述式	生態系の破壊と公 害・環境問題	【設問2】は熱帯林の特徴、【設問3】は有害物質について問うという、多くの受験生にあまり馴染みのない内容であった。【設問7】(G)では、パリ協定の枠組みを受けた日本の2030年度の温室効果ガスの排出目標を問うている。問題文の時系列と選択肢から26%と判断できるが、2021年に日本政府が46%に引き上げたことを覚えている受験生はやや戸惑ったかもしれない。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

同志社大学の問題は、一部にやや難易度の高いものがあるものの、概ね教科書の内容に準拠した標準的なものである。したがって、まず教科書を徹底的に学習し、その内容を確実に自分のものにしておくことが求められる。また、近年多く出題されている日本国憲法の条文の文言に関する理解を深めておきたい。また、国債残高や合計特殊出生率などの統計数値などを、資料集などを用いて押さえておこう。用語集や参考書の活用も有効だろう。あとは過去問を解くことによって演習力の向上を図ることが大切である。